

明日への扉

No.11



Chuta
チュウタ
CHUTA さん

イリュージョンマジックが

驚きと喜びと感動に変わる



ショーでは、同じく「菊地マジック」で活動していた福島県出身の妻のNOZOMIさんと共に舞台に立つ。ショーに使う道具を車に積み込み、全国各地へ出掛ける。現在、アシスタントを募集中。

昭和56年鹿屋市生まれ。平成9年、15歳で福岡市に移り、翌年、16歳の時に同市のマジシャンに弟子入り。平成21年に帰郷・独立し、現在、プロマジシャンとして、年間約100本の公演をこなす。妻と1男2女の5人家族(33歳)

「たくさんの経験をした」と、15歳で鹿屋を出て、しばらくは福岡市で飲食店のアルバイトをしていたのですが、そこで、マジシャンをしているお客さんと出会い、その人から、のちに師匠となるマジシャンを紹介されたのが、この世界に飛び込むきっかけとなりました。

師匠は、現在も九州を拠点に全国各地で活動している「菊地マジック」の主宰・ジミー菊地。その師匠から「君、マジックやらないか」と思いがけず声を掛けられたのです。当時、マジシャンたちの気前の良さ
と男気を憧れのまなざしで見ている私は、迷うことなく門をたたきました。

しかし、表の華やかなショービジネスとは裏腹に、下積み生活は大変厳しいものでした。公演の無い日は、練習と道具製作の繰り返しで、朝から翌日の明け方までかかることがしばしば。それでも、生活の苦しさより、マジックを少しでも多く学ぶことの喜びのほうが大きかったのだらうと思います。

結局、弟子として最も長く事務所に在籍したことから、事務所の様々なことを任せてもらうまでになりました。ピエロや大道芸、少人数の観客に対して至近距離でマジックを行う「クローズアップマ

ジック」など、様々なステージで実績を積むこともできました。

平成21年、27歳の時、長女が1歳半になるのを機に帰郷し、「マジック暴威」という事務所を設立。現在、遠くは北海道など全国各地で公演しています。主なマジックは、人が入っている箱にナイフを刺したり、人が瞬時に入れ替わったりするダイナミックなイリュージョンと「変面」。

「変面」は私が最も得意とするもので、瞬時に様々な仮面が変わるという中国の伝統芸能。日本で演技する人はほとんどいません。

また、最近では、市民講座や小学生を対象にした講座で講師となる機会もいただいています。

夢はラスベガスでのショー。いつかあの舞台を踏んでみたいですね。今はこうして鹿屋を拠点に市内外問わず活動していますが、これまで簡単な道のりでなかったことは言うまでもありません。でも、誰しも、人との出会いを大切に、どんな仕事であっても一生懸命に取り組めばチャンスが訪れると思っています。私のような人間がいて、こんな職業がある…。今後、私のマジックショーで、何か少しでも感じてほしい、皆さんのお役に立てられればと思っています。